

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【音楽】

1. 対 象 1 学年

本学級の生徒は、お互いの意見を伝え合いながら表現を工夫する学習に取り組む姿が見られる。一方で、友達の意見に任せてしまうなど、イメージと音楽を形作っている要素を関連付けながら思いや意図をもって表現する力が弱い生徒の姿も見られる。そこで今回は、鑑賞活動で学んだイメージと音楽の関わりを生かし、個人でイメージを音素材で表現する創作活動を行うこととした。個別に創作活動に取り組むことで、人任せにせず、自分で考えて学ぶ姿を期待したい。

2. 題材名 「イメージと音楽との関わりを感じ取ろう」（全6時間）

3. 題材で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	音素材の特徴及び音の重なり方の特徴について表したいイメージと関わらせて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な課題や条件に沿った組み合わせなどの技能を身に付ける。
思考力, 判断力, 表現力等	音色、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、それらを生かしてどのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。
学びに向かう力, 人間性等	音色、テクスチャの違いによる音楽が生み出す雰囲気や表情などの変化に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作や鑑賞の学習活動に取り組む。

4. 本時の目標

夏休みのイメージを1つの音素材で表現した生徒が、音の重なり方の工夫や友達の創作物を参考にしたり、話し合いをしたりする活動を通して、夏休みの一日をイメージさせる音楽をつくることができる。

5. 授業展開【本時・ 単元 】

解決したい課題や問い

場面に応じた音楽を表現するためには、どのような組み合わせが工夫できるだろう。

考えるための材料

- ・音源の工夫
- ・ICTの活用（音楽webアプリ）
- ・生徒が表現してみたいと思うテーマの設定
- ・友達に評価してもらう場の設定

想定される活動

- ・色々な音を重ねると強い音が表しやすいのでは？
- ・あまり重ねすぎてもよく分からないから、イメージに合った音を3種類くらい重ねるのがいいんじゃないかな。
- ・一緒にしたり、ずらしたりさせてもいいね。
- ・音素材が全く違うもの同士の方は変化があると思う。
- ・同じ音の重なりでも音の数を増やしたり、減らしたりすると変化がある。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

- ・個別に創作をするが、適宜友達に創作した作品を聴いたり、アドバイスをもらったりするのは良いこととする。（ペア、グループ活動）
 - ・途中で教員が生徒の作品を全体に発表する場を設ける。（全体共有）
 - ・最後にグループごとに場面と音楽が合っているか、評価しあう場を設ける。（グループ）
- 次時への課題や目的意識をもつ。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・人の声が重なっていると色んな人がいるように聞こえるな。
- ・花火の音は和太鼓とマラカスの細かい音で表現しているのか、自分も取り入れてみようかな。
- ・自分の作品は表現できているか、もう一度聴きなおしてみよう。
- ・メインになる音は大きく、そのまわりは小さい音で表現してみよう。
- ・友達が指摘してくれた表現は、もう一度練り直した方がいいな。